



発行所：株式会社じほう www.jiho.co.jp
本社/〒101-8421
東京都千代田区神田猿樂町1-5-15
支局/〒541-0044
大阪市中央区伏見町2-1-1

© 2023じほう

根本元厚労相、若手議員で医薬品の政策研究を イノベ議連、産業構造・薬価・流通で議論開始

元厚生労働相の根本匠衆院議員は日刊薬業の取材に応じ、自身が会長を務める自民党の若手・中堅議員を中心とした「次世代ライフサイエンス・イノベーション議員連盟」で、医薬品産業の構造的な課題や、薬価制度、医薬品流通などのテーマについて政策議論を開始する考えを明らかにした。産業界からのヒアリングも想定している。

●社会保障は国会議員の「一般教養」

この議連は当選4期以下の若手・中堅議員が中心で、宏池会（岸田派）の議員が多い。議連では医薬品産業の政策研究を行うが、同時に社会保障分野での若手育成という狙いもあるようだ。根本氏は「医療や社会保障は国民生活に密着しており、国会議員の一般教養として身に付けておかなければならない分野。特に医薬品産業は高付加価値産業であり、日本の産業競争力強化の観点でも戦略的に重要だ」と話す。

根本氏自身も衆院に初当選した後、宏池会会長や党政務調査会長、党幹事長などを歴任した加藤紘一氏から「これからは政策の時代だ。政治家は自分の頭で考える力を持つ。若手議員は政策研鑽に励め」と促されたという。そこで当時、派閥を超えて、根本氏、安倍晋三氏、石原伸晃氏、塩崎恭久氏、岸田文雄氏の若手5人を中心とした勉強会を開催し始めた。石原氏を除く4人は、1993年に初当選した同期だ。

さらに根本氏、安倍氏、石原氏、塩崎氏の4人は99年ごろから「NAIS（ナイス）グループ」を結成し、年金改革、介護保険の創設、後に医療分野の政策にも関わった。日本製薬工業協会も、永山治会長（当時）らがNAISメンバーと医薬品産業論を議論していたことがある。

根本氏は「若手議員一人一人が政策テーマを持ち寄り、霞が関の官僚と議論を繰り返して政策が動く。政策を作る喜びを感じた。これを3期くらいまで繰り返した」と当時を振り返る。こうした経験を今の若手議員にも積ませたいとの思いがあるようだ。

●「薬価は安いほど良いわけではない」

議連の論点は、▽日本企業のバイオなどの研究開発力強化▽ベンチャー育成と創薬エコシステムの構築▽医薬品開発を効率化する基盤整備▽薬価制度改革▽医薬品流通▽安定供給問題▽経済安全保障とサプライチェーン問題▽医療・介護分野のイノベーションなど。

薬価制度改革では、2021年度の間年改定で対象範囲の線引きが「平均乖離率の0.625倍超」となり、23年度改定でも同じ倍率を踏襲したことに強い問題意識を持

主要ニュース

【2面】 日薬連/製薬協、「岡田・上野体制」が有力視

【3面】 レカネマブを国内申請、年内承認目指す

【3面】 小野・田辺・塩野義とスズケン子会社、医療薬を共同輸送